

# 第82回 金沢市工芸展

●2月21日(土)～3月2日(月) 10時～18時30分 ※最終日は17時閉場 ●金沢エムザ 8階 催事場 入場無料



大樋窯変祭器「尊崇」 十一代 大樋長左衛門 作  
W43.0cm×D18.0cm×H22.5cm

陶磁・漆・染・織・金工・木竹・人形・紙・ガラス・その他の工芸

受賞者ギャラリートーク  
2月21日(土)16時～17時

チャリティーコーナー

お茶席 有料・800円  
当日受付 11時～16時  
※お菓子がなくなり次第終了



詳細はこちらから

併催

## 未来につなぐ「金沢の工芸」展

●2月21日(土)～3月2日(月) 10時～18時30分 ※最終日は17時閉場 ●金沢エムザ 8階 催事場 入場無料

「これまでの100年をふりかえり100年後の未来に金沢の工芸を継承する」ことをテーマに企画展を開催します。師弟関係や親子関係、作家同士の交流など、本市工芸の歴史を紡いできた作家たちの系譜に着目し、金沢市工芸協会や金沢の作家たちが果たしてきた役割、そして今後に期待されることを読みときます。トークイベント、作家による実演も行います。(詳細裏面)

併催

## 生活工芸販売 暮らしの中の「金沢の工芸」

●2月25日(水)～3月3日(火) 10時～18時30分 ※最終日は15時閉場 ●金沢エムザ 5階 美術サロン 入場無料

金沢の工芸を暮らしの中に取り入れ、工芸をより身近に感じていただく生活工芸やアクセサリ等の工芸品を販売します。

主催／金沢市、金沢市工芸協会

後援／石川県、(公大)金沢美術工芸大学、金沢商工会議所、石川県伝統産業振興協議会、(公社)金沢青年会議所、(公財)宗桂会、北國新聞社、MRO北陸放送、NHK金沢放送局、テレビ金沢、エフエム石川  
協力／茶道裏千家淡交会石川青年部、北國いけばな研究会、石川県立美術館、金沢卯辰山工芸工房、金沢市立中村記念美術館

## 併催 未来につなぐ「金沢の工芸」展

## ■ トークイベント

● 金沢エムザ 8階 催事場 受付不要・入場無料

2月22日(日) 14時～15時30分

## 「金沢に想うこと」

■ フラワーデザイナーの竹田 浩子氏によるフラワーデモンストレーション

■ ゲスト・トーク



竹田 浩子氏

(フラワーデザイナー)

旧皇族竹田宮家の第3代当主を父に持ち幼少期から美しいものに触れることで洗練された美意識を育む。この背景が、デザイナーとしての基盤となる。オランダに在住中にヨーロッパのフラワーアレンジメントに魅せられ、技術を本格的に学ぶ。この経験を活かし、ダイナミックでありながらシンプルな、洗練されたアレンジメントに定評がある。数々の世界的ハイエンドブランドのパーティーやイベントの装花を手がけるほか、ウェディングや雑誌の撮影など多岐にわたり活躍。さらに、ボストンのナンタケット島の伝統工芸品ナンタケットバスケットを新たなスタイルにアレンジしたNouvelle Nantucket Basketのブランディングや商品デザインも担当しており、伝統工芸をモダンな視点で再解釈。この取り組みでは、クラフトマンシップとアートを融合させることで、独自の美しさを生み出すことを目指している。



折田 朋美氏

(国際協力機構(JICA)  
北陸センター所長)

東京生まれ東京育ち。学生時代のバックパッカー経験を含め、これまで70か国以上を訪問。JICAにて、途上国の課題解決と、それを通じた日本への貢献を目的とする国際協力の実務者として、現場ならびに調査・研究に携わってきた。海外在住は米国、フィリピン、スリランカ。専門は国際開発協力の政策と実施、公共政策、ガバナンス、人間の安全保障。国際協力のあり方や、人々の相互理解、多様な人々がともに生きる社会のあり方を一貫した関心としている。世界各地の現場において、文化や表現は常に人々の生活の基盤であり、時に生活の糧となり、また時に誇りや尊厳の源となることを目にしてきた。国境を越えて価値観を共有し、共にイノベーションを生み出していく「共創」の重要性について考えている。JICA緒方貞子平和開発研究所主席研究員兼務。博士(公共政策)。

十一代  
大樋長左衛門氏(金沢市工芸協会理事長、  
日本芸術院会員、美術家)

1958年文化勲章受章の十代大樋長左衛門の長男として金沢に生まれる  
1984年ボストン大学大学院修士課程修了(M.F.A.)  
2007年裏千家坐忘斎御家元より茶名「宗炎」拝受  
2016年十一代大樋長左衛門襲名  
美術家・デザイナーとしての活動は、シンガポール・UOB銀行ロビーでの5mにわたる金属アートワーク、トヨタショールームのデザイン監修、東京銀座加賀屋の店舗全般のプロデュース、イタリア・ミラノサローネでの家具デザイン発表、など、国の内外を問わず多岐にわたる。作品は、大英博物館(イギリス)、カウンティ美術館(米国・ロサンゼルス)など世界各国に所蔵され、第8回日展 最高賞「文部科学大臣賞」、ハンガリー国家勲章叙勲、恩賜賞・日本藝術院賞など受賞多数。頻発する「天災」を「天問」と捉え、「被害に遭った人々の勇気がわくようなことをしたい」という想いを胸に、意欲的な制作活動を行っている。

2月23日(月・祝) 14時～15時30分

## 作品解説・対談



## 作品解説

奈良 竜一氏

(石川県立美術館学芸員)

1988年東京都生まれ。専修大学大学院文学研究科修士課程修了後、2018年より現職。主な展覧会に、「壺中日月長 大樋陶治斎のまなざし」(2021年)、「特別陳列 生誕150年 初代徳田八十吉とその時代」(2023年)、「食を彩る工芸」(2024年)などがある。また、「生誕150年記念 板谷波山の陶芸」(2022年)や「足立美術館所蔵 横山大観と北大路魯山人 近代日本画の名品とともに」(2025年)の展示にも携わる。



## 対談

驚田 めるろ氏

(金沢21世紀美術館館長、  
東京藝術大学大学院准教授)

1973年京都市生まれ。1998年東京大学大学院美術史学専門分野修士課程修了。1999年から2018年まで金沢21世紀美術館キュレーター。第57回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展日本館のキュレーター(2017年)。あいちトリエンナーレ2019キュレーター。2020年より2025年まで和田市現代美術館館長。2023年より東京藝術大学国際芸術創造研究科准教授。単著に『キュレーターズノート二〇〇七-二〇二〇』(美学出版、2020年)。全国美術館会議理事、草間彌生記念芸術財団評議員、国際交流基金国際展事業委員。



## 対談

中川 衛氏

(金沢市工芸協会会長、  
金工作家、重要無形文化財  
「彫金」保持者(人間国宝))

1947年金沢市生まれ。「加賀象嵌」の第一人者。日本伝統工芸展「日本伝統工芸会保持者賞」、MOA美術館第13回岡田茂吉工芸部門大賞ほか受賞多数。メトロポリタン美術館や大英博物館などに作品が収蔵されている。2009年紫綬褒章、2018年瑞宝中綬章を受章。精力的に作品制作に励むほか、後進の育成にも力を注いでいる。

## ■ 実演 金沢市工芸協会会員による制作実演を行います

2月28日(土)

14時～16時

上端 伸也氏 (陶芸)

鶴見 晋史氏 (染色)

3月1日(日)

14時～16時

前田 真知子氏 (金工)

橋本 紗織氏 (竹工芸)